

コロニー中央病院だより

<コロニー中央病院 新任医師紹介>

児童精神科医2名，麻酔科の常勤医1名赴任

児童精神科は、平成20年度から医師1名のみになり、初診受付の制限を行ってききましたが、今年度、専門医師2名の着任により、受付条件を少し緩和しました。受付患者さんは、発達障害ないし発達障害の疑いの方で、小学校6年生以下でコロニー近隣の方、初診時には紹介状を必ず持参いただく方、としました。詳細は当院ホームページをご覧ください。また、5年ほど不在であった麻酔科常勤医師も新たに着任し、手術体制も正常化しました。下記に、今年度赴任された3名の先生を紹介します

●児童精神科 東 誠 先生



出身地：京都
前任機関：
あいち小児保健
医療総合センター
心療科

趣味・特技：読書と旅行です。特に読書は「本の虫」状態でギリシア古典から現代小説まで乱読していて、仕事関係の本は片隅です。

コロニーの印象：10年以上前に「緑の家」の診察に来ていた時以来です。非耐震建築にバリアフルで高度成長期のおおいを感じますが、自然に囲まれた雰囲気と職員の方々の暖かさは他病院にない魅力です。コロニーとあいち小児センターと2足のわらじで、ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、よろしく願います。

●児童精神科 鈴木善統 先生 よしのり



出身地：名古屋
前任機関：
あいち小児保健
医療総合センター
心療科

趣味・特技：趣味は、日帰りできる程度の登山と、長距離ウォーキングです。昨年10月に三河湾100kmウォーキングを、妻と二人で完歩しました。

コロニーの印象：外観は「昭和」の雰囲気いっぱいですが、尊敬する児童精神科医の高橋脩先生や杉山登志郎先生が長く勤務された、歴史ある病院です。その名を汚さぬよう、吉村先生の御指導のもと、精一杯頑張っていきたいと考えています。

●麻酔科 若山江里砂 先生



出身地：名古屋
前任機関：
名古屋第二赤十字
病院麻酔科

趣味・特技：最近アーチェリーを始めました。特技ではないですが、昔から子供と犬には好かれます。

コロニーの印象：駐車場から病院まで毎日森林浴ができ、朝は爽快ですが、帰りは猫をひきそうで、ちょっとドキドキしています。

麻酔科歴は長いですが、小児のことはまだまだ学ぶことだらけで、他科の先生方には、とんでもないことで相談してばかりで、申し訳ありません。でも長年の夢であった小児麻酔にどっぷり浸かる日々に、今は夢中になっています。

■ 中央病院の理念と基本方針

私たちは成長や発達に支援を必要とする方々により良い医療を提供するように努めます。

- 1,乳児期から成人までを対象とし患者さんの目線に立ってやさしく安心できる医療を行います。
- 2,心とからだの成長・発達に影響する子供の疾患を総合的に診断し良質な専門的医療を提供します
- 3,患者さんが自立した生活ができるよう,在宅支援や地域との連携を推進します
- 4,成長・発達に影響する病気の原因追究及び、治療法の開発を発達障害研究所と協力して進めます。

小児外科のめざす 新しい方向性

障害児(者)に特有な外科疾患のニーズに対応

中央病院小児外科の最近の動向を紹介します。私どもは、これまで横隔膜ヘルニアや鎖肛、胆道閉鎖症など新生児・小児の外科疾患を中心に治療して参りました。また、心身障害児(者)施設の中にありますので、以前から重症心身障害児の外科疾患を扱う機会も多く、年齢的には小児の範疇を越えていても障害者特有の外科疾患については守備範囲を広げて診療にあたっております。特に最近、冒頭に書きましたいわゆる小児外科疾患以外の障害者外科のニーズが増えてきておりますので、私どもの目指す新しい方向性として、この障害者外科について述べたいと思います。

障害児(者)で特に外科的な治療が考慮される主たる病態として、呼吸の問題、嚥下の問題、胃食道逆流の問題があります。つまり上気道閉塞による呼吸障害、脳性麻痺による摂食および喉頭機能障害、食道・胃の逆流防止機能の低下による嘔吐や逆流性食道炎などがあります。手術が必要な患者さんには気管切開術や胃瘻作成術、逆流防止術などが行われます。その際には「今本当に必要な治療は何か」「何を優先させるか」「侵襲が最も少なくなるにはどの方法が良いか」ということを体系的・長期的な視野で考えて対応しています。これは、障害者外科に限ったことではありませんが、寝たきりで筋緊張が強く、側彎やけいれん、呼吸障害などが複合し、さらに自分の考えを言葉で表現することができない患者さんの診療に際しては特に慎重に考慮すべきであると考えています。最小限の侵襲で最大限の治療効果が得られるように努めています。

喉頭機能不全には喉頭気管分離術が広く行われるようになってきました。私どもはその手術のほかに、声帯側の閉塞したT字型のチューブを気管切開口より留置することで可逆的に喉頭と気管を分離する方法を以前より導入しています。また、胃食道逆流症に対する逆流防止術においては腹腔鏡手術を導入して外科的侵襲がより小さくなるようにしています。また気管切開後の気管腕頭動脈瘻による出血の予防や治療など、術後のフォローアップにも注意を払っております。

このような障害児(者)に特有の病気の他にも、イレウスや胆石症などいわゆる一般的な外科疾患の障害者患者さんのご紹介もよくいただきます。これは、てんかんなどの基礎疾患の管理や、検査・麻酔・術後管理の困難さによるものと思われま。一般外科や他科の先生方には私どもの障害児(者)医療の知識や情報をご提供し、お互いの協力体制を築いていくことで障害児(者)がより充実した医療が受けられるものと考えています。(副院長 加藤 純爾)

ひとくくモ

災害ボランティア活動時の感染対策

◎健康管理(自己管理)・注意すること 自己完結型での活動

- ・防寒、暑さ対策・飲食物の準備等
- 感染症を持ち込まない。広げない。**
- ・現地で体調不良時は無理をしない。(体調不良時はリーダー、健康管理者にすぐに申し出る)
- ・咳エチケットを実行する。(持参マスクを着用)
- ・手指衛生を徹底する。(食事前、トイレの後)
- ・手指消毒薬、マスク、消毒薬(アルコール・塩素系等を持参)
- ・ワクチン接種歴の確認および推奨するワクチンの接種

◎推奨するワクチン(自己防衛・集団感染防止)

- ・ **インフルエンザ**: 季節前・計画的に
- ・ **破傷風**: 創傷を扱う可能性、瓦礫の処理にあたる場合(40歳以上でDPT、DTワクチン接種済みであれば1回の接種で抗体は速やかに上昇する)
- ・ **麻疹**: 2回の接種が終了していない場合、麻疹風疹混合MRワクチンを推奨
- ・ **A型肝炎**: 汚染された水や飲食物からの経口感染(60歳未満の場合に推奨)

※ご不明な点は何時でも聞いてください。(感染管理認定看護師 脇 真澄)

東日本大震災 職員派遣活動の報告



東北地方を中心とした巨大地震と津波災害で被災された方々や、福島第1原発の事故で避難された方などに対する医療的な支援で、厚生労働省から愛知県にも職員派遣要請があり中央病院の一部職員も参加しました。その派遣状況について、お二人に聞きしました

心のケアチーム

～児童精神科医 鈴木善統 先生～

Q:「心のケアチーム」のコロニー班は、どこに、どのようなメンバーで派遣されたのですか。

4月16日～21日、愛知県の心のケアチーム第3班として派遣されました。構成は児童精神科医師、こぼと学園：中尾看護師、療育支援課：安ノ井臨床心理士に加え県庁事務方の4人チームで、一の関市に宿泊しながら、気仙沼市で心のケア対策の活動を行いました。

Q:どのような活動を行なったのでしょうか

現地保健所からの指示で、他県等からの支援チームと手分けし保健師らとともに、各避難所(約2000人が避難)を巡回し、被災住民の中の依頼者と対面し、診察や相談に応じました。

Q:どんな症状の方がみえましたか。

PTSD(心的外傷)の方が多く、避難所の暖房機の音が津波の音に聞こえ、夜中に起きるなど不眠が続きフラッシュバックを生じる58歳男性。独居で家も車も流され、インシュリン注射をしていた53歳男性で、不眠や避難民と喧嘩するなど不安定な方でしたが、話をじっくり聞くと穏やかになり、内科医に依頼した例、PTSD症状とともに、認知症や統合失調症が進行した例、また

PDDが疑われ、悪夢や眠りが浅いなど軽いPTSDと考えられた9歳男児の例で「お地藏さまが津波を押し返した」とのことばが印象に残り、付近の寺を探すと、まさに海からの津波を手で押さえている様な姿の



地藏(写真)をみつけ納得した例もありました。

Q:活動を通じ感じたことは

活動中は避難民の方々の話を傾聴し、宿に帰ると疲れてすぐ眠る日々で、スタッフの中には不眠になる人もいました。ただその一方で、東北人の気質、寒さに耐える我慢強さなのか、症状をもっていても訴えられる方が少なかったのが印象的でした。

原発事故避難住民の放射線測定

～放射線科技師 山田室長以下6名～

2回派遣された水野専門員に聞ききました。

Q:中央病院放射線科からは、いつ、どこへ、何名が派遣されましたか

厚生労働省から愛知県に派遣要請があり、3月24日～4月28日まで、当院の放射線技師6名全員が各5日間、順番に派遣されました。最初に私、水野で、次に西川主任、柘植主任専門員、安部主任、山田科長、山田室長の順で派遣され、最後に水野が再度行きました。派遣場所は個々に異なりますが、原発の警戒区域外の川俣町や郡山市、いわき市などの周辺市町村でした。

Q:どんな器材をもっていかれたのですか。

GM計数管(ガイガー・カウンター)という放射線量を測定する機器です。

Q:どんな活動をされたのですか

主として、保健センターや体育館、避難所などに出向き、避難住民だけでなく役所の職員、警察、自衛官などの被爆線量のスクリーニング測定を行いました。10万カウント以上であれば除染対象になります。実際には車両ではありましたが、人では経験しませんでした。

Q:印象に残ったことは

避難住民の放射線量の測定だけと思ったら、住民が育てた野菜、タケノコ、花などの測定も頼まれましたが、井戸水の依頼には困惑しました。測定不可能なのでお断りしました。また、実際にそれらを食べたり、飲んでよいか?との質問が多く、同行の大学の先生は、子どもは止めた方がよいと答えていました。

Q:活動を通じ感じたことは

私自身は2回行きましたが、とくに2度目の時には、子どもの身体への影響に関する質問が多く、長期にわたる避難生活の疲れと、放射線的不安で、避難住民の方が、よりナーバスになっておられると感じました。



(写真は放射線測定中の西川主任)

スタッフ紹介

多師 済 済

薬剤師



橋本さゆき



コロニーに勤務して間もなく10年ですが、印象は？と聞かれたら、今まで勤務した職場の中でいちばん自分に合っている、と答えられる気がします。愛知県の職員になって今までに4ヶ所の職場で仕事をしてきました。コロニーに異動してくるまでは、くすりの業界関係者との関わりが多い仕事でしたので、コロニーで初めて患者さんと接する仕事について、と言っても過言ではありません。慣れない頃は、ドキドキしながらお話していましたが、少しずつ慣れてきた時、患者さんやご家族の方々の言葉・考え方から、自分が多くのことを学んでいることに気付きました。

薬剤師はくすりを作ってその説明や情報提供をしていたら、とりあえず「仕事しています」って言えるかもしれませんが、コロニーはそれだけではなく人と人との繋がりという土台に支えられて、薬剤師+αの仕事ができる稀少な職場だと思っています。一方で薬剤部の調剤設備などは、決して先進的であるとは言えない状況のため、その分を各薬剤師が職能で補完しながら業務を行っています。

時として私は「アナログな薬剤部」と表現してしまいましたが、今回の大震災を思った時、手作業でこなす技術の大切さもあらためて実感しています。そしてコロニーでは日々の業務を通して基本的な薬剤師の技術のブラッシュアップがされている気がします。

このように本当に多くのことを学ばせてもらっている職場であり、薬剤師の仕事の楽しさの原点を教えてくれる職場ですので、ここで得たものを還元できるように、今後も仕事に取り組んでいきたいと思っています。

～問診票～

- ・出身地はどこですか？
名古屋市です。
- ・コロニー在籍何年ですか？
9年目に入りました。
- ・趣味は？
植物の世話と梨木香歩ワールドの奥行きを探索することです。
- ・特技はなんですか？
とくにありません。
- ・猫と犬どっちが好きですか？
どちらかと言えば犬です。
- ・マイブームは？
フライパン1つで、美味しいパエリアを作るワザをマスターすることです。
- ・最近、気になるニュースは？
NYのイエローキャブを日産自動車独占的に供給することになったこと、かな。
- ・コロニーで好きな所は？
外周道の一番奥（養楽荘の裏手あたり）。秋になると綺麗なピンク色に紅葉する桜の老木が、お気に入りです。

医師紹介



●小児神経科 林 直子 先生

- ・出身：広島市
- ・前任機関：碧南市民病院
- ・趣味：国内、海外旅行が好きです
- ・コロニーの印象：昨年10月赴任し、あっという間に半年過ぎました。積もった雪をかきわけて高蔵寺から病院まで歩いたことも、コロニーの見事な桜にみとれたのも、つい先日の様な気がします。豊かな緑に囲まれて、とても素敵なおところです。これからもどうぞよろしくお願ひします。



コロニー外周路で、咲いた紫陽花です。一般にアジサイの花の色は、土壌の酸性度で決まるといわれていましたが、最近その「EBM」はないとのこと。（wikipedia.より）

編集：広報委員会